

第33回

職員のための空間－休憩室－

近畿大学 建築学部
准教授 山口 健太郎



【経歴】

京都大学大学院を卒業後、株式会社メトス、国立保健医療科学院協力研究員を経て2008年より近畿大学理工学部建築学科講師。2011年4月より現職。

特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護などの研究を行うかたわら、高齢者施設の設計にも関わる。主な建物に「ケアタウンたちばな、設計監修、大牟田市」などがある。

図書館を計画する際には、環境の良い場所に職員室を持つべき、との考えがある。図書館の職員は常に利用者の視線にさらされており、心理的なストレスを感じやすい。休憩時間にはしっかりと体を休め、気分を新たにしてその後の仕事に臨まなければならない。そのためにも休憩室は心身をリフレッシュできる環境にしなければならない。

高齢者施設も同様に常に利用者の目にさらされている。加えて、繰り返される認知症の方の訴えや、移乗介助等の重労働などにより心身両面での負担感が強い。高齢者施設の休憩室も図書館と同じように環境の良い場所に設けるべきであろう。

①気分を切り替えることができる更衣室

家庭でのストレスを仕事の場に持ち込むべきではなく、また、仕事上のストレスを家庭に持ち帰るのもよくない。仕事と家庭でのオンとオフの切り替えをしっかりとしなければならない。更衣室は、仕事着と普段着を切り替える場であり、気持ちを切り替える場でもある。更衣室には、ベンチなどを設け、少し腰かけて一息つくことができるようにする。ある施設では、休憩室に音楽を聴くことができる高級なマッサージチェアを設置していた。出勤時には、好きな音楽を聴き気持ちを高め、帰宅時には少し高ぶった気持ちを抑えて疲れた体をほぐす。さらに、このマッサージチェアは坪庭に面して置かれており、空間としてもとても気持ちがよい。どれぐらいの使用頻度かは聞いていなかったのだが、たとえ使用していなくてもこのような職員に対する気配りは、職員の気持ちを落ち着かせるだろう。

②職員休憩室はコミュニケーションの場

集団処遇に比べユニットケアでは、職員が一人で行動する時間が長くなる。ユニット内には複数のスタッフがいるが、いずれも忙しく働いているため、仕事上の不安や悩みを相談する機会が少ない。さらに、休憩時間もユニット内で食事を摂ったりしていると、他のスタッフと話す場面がほとんどない。職員休憩室は、他の部門やユニットの職員と出会える場であり、何気ない相談ができる場でもある。例えば、「今日、〇〇さんがとても不機嫌で、こまったんですよ。」

「大変だね。あの方は便秘気味だとすごくイライラするから、排便があったかチェックするといいよ。出てなかったら看護師に相談してみたら？」などの会話が出てくる。改まった会議の場では良いアイデアが出てこなかったり、発言者が限定されていたり、または、上司から厳しい口調で命令されるなど、現場の様々な出来事に対して柔軟に対応する事ができない。職員休憩室での何気ない会話は、会議よりも効率的な問題解決能力を持っている。

それゆえに職員休憩室には、複数のテーブルやいすを設置し、コミュニケーションが活発になるように工夫する。さらに、大きな窓を設け気分転換ができるようにする。また、少し体を休めたいときには靴を脱ぎ、横になれる場所も必要である。休憩室は男女が混在する事から、ソファや畳コーナーの横には目隠しを設け、他者の視線が気にならないように配慮する。

最後に図書館の中で興味深い部屋の一つとして館長室がある。ヨーロッパでは、最も書籍に詳しい人（チーフライブラリアン）が館長となる。市民に対して上質なサービスを提供するためには、最も知識が豊富な人が対応するのが望ましく、館長室は市民がアクセスしやすい場所に設ける。一方、日本では最も市民がアクセスしにくい場所に館長室を設けることが多い。日本の公立図書館の館長は必ずしもチーフライブラリアンではなく、職員を束ねる運営者としての側面が強い。施設運営と直接サービスでは求められる能力が異なり、現場経験の有無は不要という考えもあるが、現場の「長」という立場を考えるとその両方を有しているべきであろう。そして、この事は高齢者施設にも当てはまる。高齢者施設でも施設長室は奥まった場所にあることが多く、職員や地域住民が気軽に相談できる場所にはない。日々の業務がルーチン化され、地域から閉じている施設であればそれでも問題ないが、これからの施設に求められるのは個別ケアや地域包括ケアである。これらのケアでは、様々な状況に対して柔軟に対応し、その都度判断していく事が求められる。そう考えたとき、施設長は前線の指揮者であり、ケアやソーシャルワークのスペシャリストでなければならない。そして、施設長室は、その姿勢を具現化するためにも、誰でも気軽に訪問することができる位置やデザインにする必要があるのではないだろうか。